

ぐ る り 瀬 戸 内

# 城下町



# 散 志

龍野 ● 兵庫県たつの市

高梁 ● 岡山県高梁市

徳島 ● 徳島県徳島市

丸亀 ● 香川県丸亀市

因島 ● 広島県尾道市

能島・来島 ● 愛媛県今治市

宇和島 ● 愛媛県宇和島市

安芸 ● 高知県安芸市



〈施設アイコンの見方〉

- 駐車スペースがゆったりしている施設
- 小さな子どもを連れて利用できる施設
- 子どもの自由研究にも活用できる学習施設
- ものづくりや伝統文化に親しめる体験型施設

TOKUSHIMA

徳島

徳島県徳島市

→P.08



TAKAHASHI

高梁

岡山県高梁市

→P.06



TATSUNO

龍野

兵庫県たつの市

→P.04



MARUGAME

丸亀

香川県丸亀市

→P.10



因島

広島県尾道市

能島

愛媛県今治市

来島

愛媛県今治市

→P.12



UWAJIMA

宇和島

愛媛県宇和島市

→P.14



AKI

安芸

高知県安芸市

→P.16



# いにしえの面影を残す 優しく懐かしい 瀬戸内の城下町へ

高さ日本一の石垣に鎮座する天守や島の暮らしを見守り続ける水軍の城。町なかには、かつて城の堀だったせせらぎが流れ、格式ある門構えの武家屋敷や虫籠窓の町家がたたずむ。大工町、寺町などの地名にその成り立ちを残し、いにしえの面影が色濃い瀬戸内の城下町。どこか懐かしい風景を探しに海を渡って出掛けよう。

瀬戸内  
ロードマップ  
→P.18

## 城と城下町の基礎知識

【天守】てんしゅ  
威厳の象徴であり、戦時には最後のとりでとなる。遠くからでも敵を察知できるよう、高層に造られている。天守の高さは「〇層〇階」で表し、層は最上部を除く屋根の数のみ。



【櫓】やぐら  
敵の偵察や射撃のための高樓。



【本丸】ほんまる  
城の中核部。居住域兼政務域であり、戦時には最終防衛線となる。

【二ノ丸 三ノ丸】にのまる さんまる  
本丸の外側を囲むのが二ノ丸で、さらにその外側を囲むのが三ノ丸。どちらも本丸の防衛を目的に造られている。

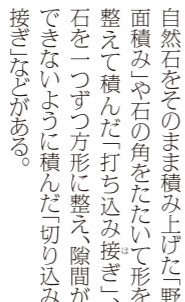
【大手門】おおももん  
城の表門。敵を追いという意味で「追手門」とも呼ばれる。

【理門】うずみもん  
城主の脱出用の門。石垣や土塀の下部をくぐる形になっている。

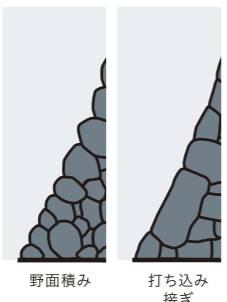
【狭間】さま  
城内から矢や鉄砲を放つため、塀や石垣、櫓、天守などに開けられた穴。



【石垣】いしがき  
自然石をそのまま積み上げた野面積みや石の角をたいて形を整えて積んだ「打ち込み接ぎ」、石を一つずつ方形に整え、隙間ができないように積んだ「切り込み接ぎ」などがある。



【町割り】まちわり  
城を中心し、侍が住む侍町、足軽が住む足軽町、商人や職人が住む町人地、寺を集めた寺町が配された。身分の高い家臣ほど城に近い位置に屋敷を持ち、現在の地名で、上屋敷町、下屋敷町などがこれに当たる。足軽などは町人地の外側に配されることも多く、番町、三丁町、鉄砲町などが地名に残る。町人地は職種ごとに分かれており、地名では、呉服町、油屋町、大工町、鍛冶町、紺屋町などがこれに当たる。





注目スポット



絶品スイーツで話題の古民家カフェ  
菓子と珈琲「朔」

2013年のオープン以来、神戸出身のオーナーが手掛けるケーキが評判を呼んでいる。モーニングセットやトーストサンドのランチも人気。中庭を眺めながらゆったりとしたひとときを過ごせる。

◆たつの市龍野町川原町106 ☎0791-72-8239 ◆営業時間/9:00~19:00 (L.O.18:00) ◆休業日/木曜、第3金曜

城下町の老舗

三木露風も通った木造回廊が残る書店

伏見屋商店

1901年築の建物は外観こそ一般的な町家だが、店内に入ると天窓から2階の吹き抜けを通して外光が降り注ぐ。少年時代の三木露風も常連だったそうで、当時は2階の回廊の書棚にもびっしりと本が詰まっていたという。

◆たつの市龍野町上川原79 ☎0791-62-0091 ◆営業時間/9:00~18:00 ◆休業日/日曜、第2土曜、お盆期間、1月1日~3日

道幅が狭く、また観光スポットは狭いエリアに集まっているので、龍野城に隣接する龍野公園の駐車場に車を置いて徒歩で巡ろう。



武家屋敷資料館 学び OK

鉄砲師や鍛冶職として仕えた芝辻家の邸宅。1837年の建築といわれ、式台や玄関、座敷回りなどは当時のままの姿をとどめている。

◆たつの市龍野町上霞城45 ☎0791-63-9111 ◆開館時間/10:00~16:00 ◆休館日/月曜(祝休日の場合は翌平日) ◆入館料/無料



P 学び OK

うすくち龍野醤油資料館

【うすくちたつのしょうゆりょうかん】

1979年にオープンした全国初の醤油資料館で、旧社屋だった建物は国登録有形文化財。館内には原料処理場、仕込蔵、麹室などが再現され、昔の醸造道具を解説している。

◆たつの市龍野町大手54-1 ☎0791-63-4573 ◆開館時間/9:00~17:00(入館は16:30まで) ◆休館日/月曜(祝休日の場合は翌平日) ◆入館料/10円



水路に沿って白壁が続く如來寺周辺の町並みは人気の撮影ポイント。



龍野 兵庫県たつの市  
武家屋敷や白壁のしろうゆ蔵に脇坂時代の面影



たつの市立龍野歴史文化資料館 学び OK

【たつのしりつたつのれきしぶんかしりょうかん】

龍野の原始から近世までの歴史を出土品や武具、民具などで紹介。「龍野城主と城下町」のコーナーでは、脇坂安治が賤ヶ岳の合戦で使った十文字槍や太閤検地帳などが見られる。

◆たつの市龍野町上霞城128-3 ☎0791-63-0907 ◆開館時間/9:00~17:00(入館は16:30まで) ◆休館日/月曜(祝休日の場合は翌平日) ◆入館料/一般200円、小学生~大学生・65歳以上100円



ゆかりの武将

脇坂安政 1633年~94年

江戸幕府の老中、堀田正盛の次男として生まれ、7歳の時に信濃飯田藩主、脇坂安元の養嗣子に迎えられる。54年に家督を継いでからは江戸城の本丸修営に携わるなど幕政に貢献。72年、龍野藩に転封となり、龍野城を再建した。

城FILE 1

龍野城

別名 霞城  
構造 平山城  
築城者 脇坂安政  
築城年 1672年  
遺構 石垣  
再建 本丸御殿、隅櫓、埋門など

たつの市龍野町上霞城 ☎0791-63-0907

◆開館時間/9:00~17:00  
◆休館日/月曜(祝休日の場合は翌平日)  
◆入館料/無料  
◆アクセス/山陽自動車道「龍野」ICから約20分



現在の正面玄関に当たる埋門

START

龍野城



本丸広場からの眺め



甘いものでひと休み。城下町の和菓子店で売っている淡口しょうゆまんじゅうは、ほんのりしょうゆ味の生地とこしあんが絶妙の相性。

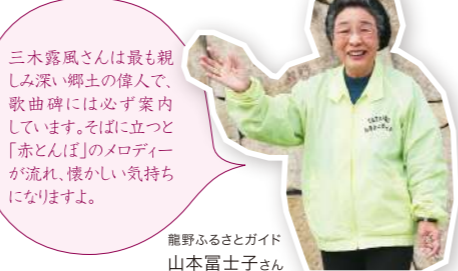


三木露風生家 学び OK

【みきろふうせいか】

童謡「赤とんぼ」の作詩者、三木露風の生家。近くには露風の足跡を紹介する霞城館、赤とんぼの歌碑などゆかりのスポットが点在している。

◆たつの市龍野町上霞城101-3 ☎0791-62-0553 ◆開館時間/9:30~16:30 ◆休館日/月曜(祝休日の場合は翌平日)、祝日の翌平日 ◆入館料/無料



龍野ふるさとガイド 山本富士子さん

三木露風さんは最も親しみ深い郷土の偉人で、歌曲碑には必ず案内しています。そばに立つ「赤とんぼ」のメロディーが流れ、懐かしい気持ちになりますよ。



近年では、龍野出身で童謡「赤とんぼ」を作詩した三木露風の生家が公開され、古民家を改装したカフェもオープン。江戸期からの歴史の中にたたくすむ町に、新しい風が吹いている。

龍野の質素儉約の方針が家臣の屋敷にも一貫していたことがうかがえる。

寺院や商家が軒を連ねる小道に風情を感じながら歩けば、うすくち龍野醤油資料館に至る。醸造メーカーの社屋だったルネサンス風のれんが造りの建物内部には、木製の仕込み桶や圧搾機など昔の道具が並ぶ。しょうゆ造りの歴史に触れた後は、かつての武家屋敷へ。かやぶき屋根の家屋も見られ、龍野藩の質素儉約の方針が家臣の屋敷にも一貫していたことがうかがえる。

近年では、龍野出身で童謡「赤とんぼ」を作詩した三木露風の生家が公開され、古民家を改装したカフェもオープン。江戸期からの歴史の中にたたくすむ町に、新しい風が吹いている。

城から、白壁がまぶしい土塀の脇を抜け、寺院や商家が軒を連ねる小道に風情を感じながら歩けば、うすくち龍野醤油資料館に至る。醸造メーカーの社屋だったルネサンス風のれんが造りの建物内部には、木製の仕込み桶や圧搾機など昔の道具が並ぶ。しょうゆ造りの歴史に触れた後は、かつての武家屋敷へ。かやぶき屋根の家屋も見られ、龍野藩の質素儉約の方針が家臣の屋敷にも一貫していたことがうかがえる。

近年では、龍野出身で童謡「赤とんぼ」を作詩した三木露風の生家が公開され、古民家を改装したカフェもオープン。江戸期からの歴史の中にたたくすむ町に、新しい風が吹いている。

鶏籠山の麓に立つ平山城は1672年、信濃飯田から転封した脇坂安政が5万2000石の居城として築いたといわれる。当時の絵図を基に復元された「昭和の城」へ。埋門をくぐり石段を上ると、本丸御殿が姿を現した。藩主の邸宅だった入り母屋造りの建物は、瓦屋根のなだらかな曲線が美しい。

本丸広場から一望する町並みは、陽光に輝く葺の波間から突き出したしろうゆ蔵の煙突がひととき目を引く。淡口しょうゆの産地として名高いたつの市。初代藩主、安政が製造を奨励したことで町は大きく発展し、脇坂氏は廃藩まで10代、200年にわたり「龍野の殿様」と慕われた。



注目スポット

ベンガラの町並みは城下町とは一味違う趣  
吹屋ふるさと村

幕末期から明治にかけて銅山で栄えた吹屋地区は、特産のベンガラ(酸化第二鉄)を塗り込めた町家が並び、国の伝統的建造物群保存地区に指定されている。豪商の邸宅や資料館などの見どころも多い。

◆高梁市成羽町吹屋  
☎0866-29-2222(成羽町観光協会吹屋支部)

城下町の老舗



ユズ酸味爽やかに  
伝統の味を守り続ける  
天任堂

地元産のユズやもち米、水飴等で作る高梁の代表的な和菓子、ゆべし。江戸初期の代官、小堀遠州が考案したといわれ、天任堂では6代藩主の板倉勝隆に献上したのを機に作り始めた。柔らかい食感と爽やかな風味が特徴。短冊状の“包みゆべし”は5枚360円〜。

◆高梁市東町1877 ☎0866-22-2538  
◆営業時間/9:00~17:00 ◆休業日/日曜

ふいご峠駐車場から天守へ向かう山道は急勾配続きで、石段の高さもふぞろい。歩きやすい運動靴で登ろう。



頼久寺庭園

【らいきゅうじていえん】

創建は南北朝時代。国史跡に指定されている蓬萊式枯山水庭園は代官、小堀遠州が1605年ごろに作庭したもの。白砂を敷いて鶴と亀をかたどった石組みを配し、サツキの刈り込みで波とうを表現している。

◆高梁市頼久寺町18 ☎0866-22-3516  
◆開園時間/9:00~17:00 ◆休園日/無休  
◆入園料/大人400円、中・高生200円



約10分

トイレ休憩は高梁商家資料館へ。江戸末期の町家を活用した無料休憩所だ。



五万石

【ごまんどく】

ご当地グルメ「インディアンマト焼きそば」が味わえるお好み焼き店。カレー風味の焼きそばに、地元産のトマトを使うのが基本で、五万石ではそばを卵焼きで覆い、その上にトマトソースをかける。720円。

◆高梁市鍛冶町125 ☎0866-22-3310  
◆営業時間/10:30~20:30  
◆休業日/月曜



約5分

紺屋川筋

【こやがわすじ】

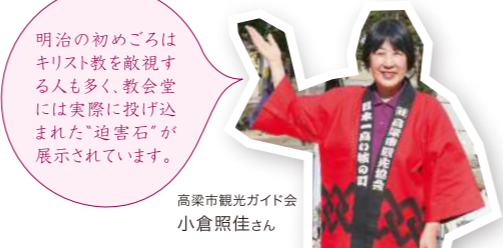
観光客に人気のエリア。川辺を彩る桜と柳の並木通りは「日本の道百選」に選ばれている。新島裏ゆかりの高梁基督教教会堂は日曜の午前以外は自由に見学できる。

◆高梁市鍛冶町 ☎0866-21-0461(高梁市観光協会)



約5分

高梁高校に立つ御根小屋跡の碑。



明治の初めごろはキリスト教を敵視する人も多く、教会堂には実際に投げ込まれた“迫害石”が展示されています。

高梁市観光ガイド会  
小倉照佳さん



勇壮な山城の麓  
歴代藩主らが刻んだ  
繁栄の証しに出会う

高梁

岡山県高梁市

**歴史**  
鎌倉時代の地頭、秋庭重信が1240年に砦を築いたのが始まり。戦国時代は激しい争奪戦が繰り返され、江戸時代も開幕直後の小堀氏から末期の板倉氏まで、城主の入れ替わりは多かった。明治政府から廃城令が出されたが、山頂の城の取り壊しは費用がかかるため、「解体した」と虚偽の申告をして難を逃れた。

**ゆかりの武将**  
水谷勝宗 1623年~89年  
初代備中松山藩主、水谷勝隆の長男として生まれる。1664年に跡を継いでからは新田開発に努め、城下町の整備にも尽力。84年、外様大名から譜代大名に加えられた。

約20分  
&  
約10分

城FILE ②

**備中松山城**

別名	高梁城
構造	山城
天守	2層2階(国指定重要文化財)
築城者	秋庭重信
築城年	1240年
遺構	天守、櫓、堀、石垣、土塁

岡山県高梁市内山下1 ☎0866-21-0461(高梁市観光協会)  
◆入城時間/9:00~17:30(10月~3月は16:30まで)  
◆休城日/12月29日~1月3日  
◆入城料/大人500円、小・中生200円  
◆アクセス/岡山自動車道「賀陽」ICからふいご峠駐車場(8合目)まで約30分。そこから徒歩約20分 ※多客期は城見橋公園(5合目)で登城バスに乗り換えふいご峠駐車場へ(運行日はホームページで確認)

高梁市観光協会 検索

START



岩の上に築かれた石垣と白壁

**高梁市武家屋敷** 【たかはししづけやしき】  
江戸中期の中級武士の屋敷が集まり、旧折井家と旧垣原家の2軒を見学できる。旧垣原家は藩主、板倉勝政の生母の実家だったことから寺院建築や数寄屋風の要素を取り入れたぜいたくな造りになっている。  
◆高梁市石火矢町 ☎0866-21-0461(高梁市観光協会)  
◆開館時間/9:00~17:00 ◆休館日/12月29日~1月3日  
◆入館料/大人500円、小・中生250円(2館共通)

標高430メートル。臥牛山の頂上付近に2層2階の天守が立つ。8合目のふいご峠から山道を上ること約15分で大手門跡にたどり着く。切り立つ岩の上に石垣がめぐらされた様は、難攻不落の名城の面影を残す。  
現在の天守は1683年、時の備中松山藩主、水谷勝宗によって修築されたもの。山陽と山陰の中間地に当たる高梁は何度も戦禍に見舞われてきたことから、内部には暖を取るための囲炉裏や藩主一家の居室など籠城への備えが盛り込まれている。  
もともと、泰平の江戸の世に藩主が登城する機会は少なく、居館「御根小屋」で政務を執った。跡地に立つ県立高梁高校の南側には長屋門や土壁が連なる武家屋敷が残り、その先には枯山水の庭園で有名な頼久寺がある。江戸初期に代官の小堀遠州が造ったといわれる庭は初夏には大波を表したサツキの刈り込みが花を咲かせる。  
頼久寺から、かつて城の外堀だった紺屋川筋へ。風情漂う城下の町並みで異彩を放つのが岡山県最古の教会、高梁基督教教会堂だ。幕末期に米国に渡った新島襄が帰国後、かねてから親交のあったこの地でキリスト教の伝道活動を展開。それがきっかけとなって誕生したという。歴代藩主らが残した数々の“遺産”は、山間の城下町の歴史を今に伝えている。



天守に囲炉裏があるのは全国的に珍しい



城下町の名物



伝統の方法を守る 体験  
藍染め工場  
古庄染工場

古くから藍の栽培が盛んに行われ、藍染めの本場として知られる徳島。自然の材料のみで藍液(染め液)を作る「天然灰汁発酵だて」を守り続ける同工場では見学と藍染め体験ができる。

- ◆徳島市佐古7番町9-12 ☎088-622-3028
- ◆営業時間/9:30~15:00
- ◆休業日/日曜、祝休日、お盆期間
- ※体験のメニュー、料金などは要問い合わせ

注目スポット



徳島は全国有数の 学び 体験  
人形浄瑠璃の国  
徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

人形浄瑠璃「傾城阿波の鳴門」のモデルとなった板東十郎兵衛の屋敷跡で、同作品が毎日上演される。展示室には、阿波木偶や舞台道具が並ぶほか、人形を遊ぶ体験ができる。

- ◆徳島市川内町宮島本浦184 ☎088-665-2202 ◆開館時間/9:30~17:00 (7月、8月は18:00まで) ※定期上演は11:00、14:00
- ◆休館日/12月31日~1月3日
- ◆入館料/大人410円、高・大生310円、小・中生200円

徳島城博物館から本丸のあった城山山頂までは歩いて10分ほど。登り口にはつえも置いてあるので、本丸を守った堅牢な石垣を見るためにぜひ登ろう。



眉山 学び 体験  
【びざん】

山頂からは、徳島市街地はもとより、天気良ければ遠く淡路島まで見渡すことができる。阿波おどり会館の5階が眉山ロープウェイの山麓駅になっており、約6分で山頂に到着。山頂駅展望台にはLED万華鏡も設置されている。

- ◆眉山ロープウェイ山麓駅 ☎088-652-3617
- ◆徳島市新町橋2-20(阿波おどり会館5階) ☎088-652-3617
- ◆営業時間/9:00~21:00(11月~3月は17:30まで)
- ※8月12日~15日は22:00まで ◆休業日/無休
- ◆料金/大人620円(片道)・1,030円(往復)、小学生300円(片道)・510円(往復)



徳島のソウルフード「豆天玉焼き」は甘く煮た金時豆、水で溶いた小麦粉を揚げた「天ぷら」、卵が入ったお好み焼き。食べられる店など最新情報はウェブサイト「とくしま豆天玉.com」でチェックしよう。

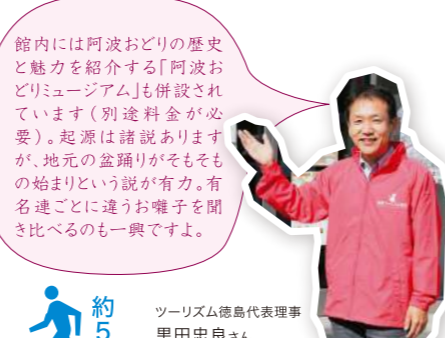
- ◆とくしま豆天玉連事務局 ☎088-666-1664



阿波おどり会館 学び 体験  
【あわおどにかいかん】

専属連が1年中公演。古風から現代の踊りまで、時代の変遷とともに変化してきた踊りを楽しめる。毎日20時から日替わりで有名連が出演。各公演の最後には観客と一緒に踊る体験コーナーもある。

- ◆徳島市新町橋2-20 ☎088-611-1611
- ◆公演時間/屋のおどり:11:00、14:00、15:00、16:00、夜のおどり:20:00 ◆休演日/6月・10月・2月の第2水曜、12月28日~1月1日
- ◆料金/大人800円(夜のおどりは1,000円)、小・中生400円(夜のおどりは500円)



館内には阿波おどりの歴史と魅力を紹介する「阿波おどりミュージアム」も併設されています(別途料金が必要)。起源は諸説ありますが、地元の盆踊りがそもそもの始まりという説が有力。有名連ごとに違うお囃子を聞き比べるのも一興です。

約5分 ツーリズム徳島代表理事 黒田忠良さん

和田乃屋本店 学び 体験  
【わだのやほんてん】

看板商品「滝の焼餅」は藩主の御用菓子として名声を博した銘菓。藩主愛飲の湧き水「錦龍水」を今も使用し、400年の時を経て変わらぬ味は「とくしま市民遺産」に選ばれている。眉山の麓、大滝山の登山口に位置する本店では、焼きたてが味わえる。下棟の建物は国登録有形文化財。

- ◆徳島市眉山町大滝山5-3 ☎088-652-8414
- ◆営業時間/10:00~17:00 ◆休業日/木曜



約10分



新町川・阿波製紙水際公園 学び 体験  
【しんまちがわ・あわせいしみずぎわこうえん】

「阿波の青石」を御影石と組み合わせた階段状のテラスやせせらぎのある池、数々のモニュメントなどが整備された憩いの水辺空間。夜はLEDの光に彩られ、違った表情を見せる。

- ◆徳島市南内町(新町川沿い) ☎088-621-5295(徳島市公園緑地課)

徳島 徳島県徳島市

天然の堀に守られた  
風格ある城跡や  
寺町に往時をしのぶ

徳島 徳島県徳島市

歴史

室町時代に細川頼之が現在の地に小城を築き、城山を滑山と名付けたとされる。戦国時代はしばしば城主が入れ替わったが、1582年に長宗我部元親が阿波を平定。3年後、羽柴秀吉の四国征伐に功績のあった蜂須賀家政が阿波国を与えられ、大規模な平山城を築造。



徳島市立徳島城博物館・旧徳島城表御殿庭園 学び 体験  
【とくしましりつとくしまじょうはくぶつかん・きゅうとくしまじょうおもてごてんいえん】

徳島藩に関する歴史資料と美術品を展示しており、日本に現存する最古の和船「徳島藩御召船 千山丸」は必見。ガラス張りのラウンジからも見える庭園は、茶人武将として知られる上田宗箇の築庭とされ、枯山水と築山泉水庭から成る。

- ◆徳島市徳島町城内1-8(徳島中央公園内) ☎088-656-2525
- ◆開館時間/9:30~17:00 ◆休館日/月曜(祝休日の場合は開館)、祝休日の翌日(日曜・祝休日の場合は開館)、12月28日~1月2日
- ◆入館料/大人300円、高・大生200円、中学生以下は無料 ※旧徳島城表御殿庭園の入園料を含む ※特別展の観覧料は別に定める

徳島の市街地には、「ひょうたん島」と呼ばれる周囲約6キロの中州がある。その中心に位置する標高約62メートルの城山。現在は徳島中央公園として整備されているその場所に、蜂須賀家の居城、徳島城が立っていた。南は寺島川(現在は廃河川)、北は助任川、さらに2キロほど離れて北には広大な吉野川。街を流れる河川が巨大な堀の役目を果たしていた。現存するのは石垣と堀、整備された表御殿庭園のみだが、その風格は藩主の居城だったいにしへの姿をほうふつさせる。大手門跡の石垣には権威を表す巨石が用いられ、庭園内の枯山水には「阿波の青石」といわれる緑泥片岩が豪壮かつ繊細に配置されている。中でも全長10・5メートルの自然石をそのまま生かした石橋は圧巻。光の加減で空色に映る橋は途中で割れており、初代藩主、蜂須賀至鎮がじだんだを踏んだから、という伝説が残っている。

庭園に隣接する徳島城博物館で徳島藩にまつわる文化財や歴史資料を観覧し、蜂須賀家の墓所が点在する眉山へ。山頂からの景色には腕を伏せたような緑の城山。それを守るように流れる吉野川が天然の外堀だったことを示す。眉山の麓に広がる寺町は城下町の名残。今は、吉野川の支流、新町川が城山と寺町の間を流れ、川辺の親水公園は市民の憩いの場となっている。

START

城FILE ④

徳島城

構造 平山城  
築城者 蜂須賀家政  
築城年 1586年  
遺構 石垣、堀、庭園  
徳島市徳島町城内  
◆アクセス/  
徳島自動車道「徳島」  
ICから約15分



復元された鷲の門

ゆかりの武将

蜂須賀家政 1558年~1638年  
尾張国の蜂須賀正勝(小六)の嫡男として生まれる。父と共に羽柴秀吉に仕え、1585年の四国征伐の後、阿波国を与えられる。阿波入国の翌年に徳島城を築城し、城下町を整備。



徳島中央公園内には蜂須賀家政の像も



## 城下町の老舗



京極家にちなんだ銘菓は  
絶妙な食感が魅力  
寶月堂 **SKP**

1917年に創業した老舗和菓子店。銘菓「六万石」は小豆あんを求肥で包み、最中種で挟んでいる。丸亀藩の石高から命名、表面には京極家の家紋の焼き印が。サクッとした最中種と求肥のもっちり感が絶妙な一品。1個130円。

◆丸亀市米屋町16 ☎0877-23-0300  
◆営業時間/8:30~18:30(水曜のみ17:00まで)  
◆休業日/1月1日

## 注目スポット



日本一のうちわどころを  
支える技を披露

うちわの港ミュージアム **学** **体** **SKP**

江戸時代、金毘羅参りの土産物として作られるようになり、国の伝統的工芸品に指定されている丸亀うちわに関する博物館。職人による実演コーナーや、うちわ貼りの体験教室もある。

◆丸亀市港町307-15 ☎0877-24-7055  
◆開館時間/9:30~17:00(入館は16:30まで)  
◆休館日/月曜(祝休日の場合は翌平日)、年末年始  
◆入館料/無料(うちわ貼り体験は1本800円)

城周辺は平たんな道が多いので、JR丸亀駅前にあるレンタサイクルを利用するのも便利(1日200円~)。

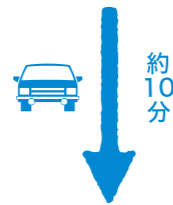


## 丸亀街道(中府の大鳥居)

【まるがめかいどう(なかふのおおとりい)】

丸亀港の太助燈籠から琴平町の高燈籠まで150丁(約12キロ)にわたる街道。丸亀城の南西にある中府の大鳥居は1871年に建てられ、金刀比羅宮を目指す旅人たちを見守ってきた。

◆丸亀市中府 ☎0877-22-0331  
(一財)丸亀市観光協会



## 中津万象園

【なかつばんしょうえん】

1688年に丸亀藩中津別館として造られた大名庭園。広大な敷地には、藩主にゆかりのある近江の琵琶湖をかたどった池があり、近江八景にちなんだ8つの島が配されている。白砂青松の松原を模した約1,500本の松や、傘を広げたような形状の一本松も楽しめる。

◆丸亀市中津町25-1 ☎0877-23-6326  
◆開園時間9:30~17:00  
◆休園日/水曜(祝休日の場合は営業)  
◆入園料/高校生以上1,200円、小・中生500円  
※丸亀美術館にも入館可能



骨付きの鶏もも肉を塩やコショウなどのスパイスで味付けし、丸ごとこんがり焼き上げた丸亀発祥のご当地グルメ「骨付鳥」。柔らかい肉質の若鳥と、かめばかむほど旨味が広がる親鳥があり、市内の約20店舗で提供されている。

◆(一財)丸亀市観光協会 ☎0877-22-0331



## 塩飽勤番所

【しわくきんぼんじょ】

丸亀港からフェリーで約35分の本島は江戸時代、塩飽水軍の根拠地として栄えた。幕府の御用船方として自治を許され、勤番所で政務を執った。信長、秀吉、家康らの朱印状などを展示している。

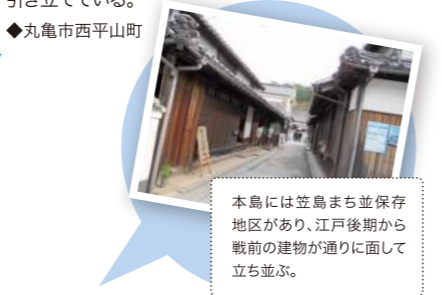
◆丸亀市本島町泊81 ☎0877-27-3540  
◆開館時間/9:00~16:00 ◆休館日/月曜(祝休日の場合は翌平日)、12月29日~1月3日 ◆入館料/高校生以上200円、小・中生100円

## 太助燈籠

【たすけとうろう】

天保年間、海上の安全を願って建てられた銅製の燈籠。約4,000人の寄進者のうち、最高額を出した塩原太助の名が付けられた。現在も毎夜点灯し、港の夜の風情を引き立てている。

◆丸亀市西平山町



本島には笠島まち並保存地区があり、江戸後期から戦前の建物が通りに面して立ち並ぶ。

近くのみなと公園には、金毘羅船を模した遊具も。

# 石の美城の麓 街道の上陸地に 昔日の繁栄の名残

## 丸亀

香川県丸亀市



### 歴史

生駒親正、一正親子が1597年に築城するが、一國一城令により廃城に。生駒家に代わり新たに藩主となった山崎家治が1643年に再築したものの、その山崎家も断絶。新城主に就いた京極高和が60年に天守を完成させ、約200年間、京極家の城となった。

### ゆかりの武将

京極高和 1619年~62年  
安毛高政の長男として生まれるが、伯父の京極忠高が嫡子を残さず没したため養子となり、龍野藩を与えられる。1658年断絶し、山崎家の後を受け丸亀藩に転封となった。

START

### 城FILE 4

## 丸亀城

別名 龜山城  
構造 平山城  
天守 3層3階  
築城者 生駒親正、一正  
築城年 1597年  
遺構 天守、石垣、大手一の門・二の門、玄関先御門、番所、長屋など



天守の最上階からは、丸亀港と街並みが一望できる

丸亀市一番丁  
☎0877-22-0331 (一財)丸亀市観光協会  
◆入城時間/9:00~16:30(入城は16:00まで)  
◆休城日/無休 ◆入城料/高校生以上200円、小・中生100円  
◆アクセス/瀬戸中央自動車道・高松自動車道「坂出」ICから約15分  
※大雨・台風の影響により一部石垣が崩落しましたが天守、資料館、城内観光案内所を含め一般的なおコースは見学可能です

大手二の門に入った正面の石垣は、見せるための石垣として巨大な石で切り込み接ぎが採用されています。場所によってさまざまな積み方がされているので、じっくりご覧ください。



丸亀城内観光案内所 佐々木茂樹さん

## 丸亀市立資料館

【まるがめしつりょうかん】

藩政時代の丸亀城と歴代藩主に関する資料のほか、美術工芸品や民具など約3万3,000点を所蔵。数々の展示からは200年にわたる京極家の栄華をうかがい知ることができる。年に数回、企画展も開催している。

◆丸亀市一番丁(丸亀城内) ☎0877-22-5366  
◆開館時間/9:30~16:30 ◆休館日/月曜、祝休日、年末年始 ◆入館料/無料(企画展は有料の場合あり)

日本一の高さを誇る石垣の上に、小ぶりの木造天守が鎮座する。現存する12天守の中で最もコンパクトだが、唐破風や千鳥破風など意匠を凝らした姿は威厳に満ちている。

「石の城」の異名の通り、そびえ立つ石垣は、石を割って積んだ打ち込み接ぎや切った積んだ切り込み接ぎ、自然石を積み上げた野面積みといった多様な様式が見どころ。とりわけ三の丸北側の出隅は、反り返って美しい曲線を描いており、「扇の勾配」と呼ばれている。

城を西に出て少し進むと、丸亀街道に突き当たる。江戸時代に流行した「金毘羅参り」の道として四国に5本通る街道の一つ。日本各地から船に乗ってやって来た参拝者が、ここを通過して金刀比羅宮へと向かった。道沿いには上陸した港からの距離が刻まれた道標や丁石、石燈籠があらこちらに点在し、かつての繁栄ぶりがしのばれる。

海の玄関口へは、街道を北へ10分ほど。その昔、周辺は遊郭などが軒を連ねて夜な夜なにぎわったといひ、木造旅館のたたずまいが、往時の面影を伝える。船着き場「新堀港」に立つのは太助燈籠。旅人たちを迎えた温かな灯は、今も毎夜ともされ、港のシンボルとなっている。



天守内には、急な階段が備え付けられている



注目スポット



因島発祥の果実を使った手作り大福が人気

因島はっさく屋 **学** **学** **P**

ハッサクを果実のまま、白あんと一緒にみかん餅で包んだ名物「はっさく大福」(1個200円)は、果肉のほろ苦い酸味とあんの甘味のハーモニーが絶妙。因島大橋を正面に望む3面ガラス張りの開放的な店内でイートインできる。

- ◆尾道市因島大浜町246-1 ☎0845-24-0715
- ◆営業時間/8:00~17:00(売り切れ次第終了)
- ◆休業日/月曜、火曜、8月中旬~9月中旬

ひと足延ばして



小島にひっそりと残る来島村上氏の居城跡

来島

戦国時代の来島村上氏が城を構えた来島は、今治市の波止浜港から定期船で5分の所にある。島全体が城跡で、一部には石垣が残されており、城主の館跡と伝わる場所に心月庵、城内には村上神社も立っている。

- ◎今治市観光課 ☎0898-36-1541
- 今治地方観光情報センター ☎0898-36-1118

因島や能島を含む芸予諸島の「村上海賊」が2016年、日本遺産に認定。詳細は専用サイトへ! **日本遺産 村上海賊 検索**



今治市村上海賊ミュージアム **学** **学** **P**

能島城の出土品や陣羽織、実際に使っていたとされる武器をはじめ、能島村上氏ゆかりの品を多数展示。実物大の模型やクイズなど、楽しみながら村上海賊について学べる仕掛けがいっぱい。

- ◆今治市宮窪町宮窪1285 ☎0897-74-1065
- ◆開館時間/9:00~17:00(入館は16:30まで)
- ◆休館日/月曜(祝休日の場合は翌平日)、年末年始
- ◆常設展示観覧料/大人310円、65歳以上250円、大学生160円、高校生以下無料
- ※2020年4月1日に「今治市村上水軍博物館」から改称

織田信長の瀬戸内海進出を2年遅らせたといわれるほど強力だった村上海賊。実は相当な知識集団でもあり、出土品の中には約500年前に中国やベトナムと交易していたことを示すものもあります。



お土産

館内にある「JiBaカフェ能島」ではボールペン(2本セット356円)やLEDライトキーホルダー(458円)などバラエティーに富んだ村上海賊グッズを販売。



今治市村上海賊ミュージアムミュージアムパートナー会長 矢野均さん

大山祇神社

【おおやまづみじんじや】

海、山、戦いの神様として古くから信仰を集めてきた。多くの武将が戦勝を祈願し武具を奉納したことから、宝物館には国宝・国指定重要文化財の武具類の約8割を収蔵している。

- ◆今治市大三島町宮浦3327 ☎0897-82-0032
- 【宝物館】◆開館時間/8:30~17:00(入館は16:30まで)
- ◆休館日/無休 ◆入館料/大人1,000円、高・大生800円、小・中生400円



因島水軍城 **学** **学** **P**

【いんのしますいぐんじょう】

全国でも珍しい城型資料館。因島村上氏の武具や遺品、古文書など貴重な資料を展示している。高台に位置し、向かいには約260年間、因島村上氏の本拠地として使われた青陰城のあった青影山がそびえる。

- ◆尾道市因島中庄町3228-2 ☎0845-24-0936
- ◆開館時間/9:30~17:00(1月2日、3日は10:00~15:00)
- ◆休館日/木曜(祝休日の場合は開館)、12月29日~1月1日
- ◆入館料/大人330円、小・中生160円、未就学児無料



標高275.7メートルの青影山の頂上には青陰城本丸跡などの遺構も。



島の覇権を握った  
海賊衆の隆盛訪ね  
島々を巡る

因島 広島県尾道市  
能島 愛媛県今治市  
来島 愛媛県今治市

村上海賊の歴史

南北朝時代から戦国時代にかけて芸予諸島を中心に活動した海賊衆。因島、能島、来島に分かれていた村上三家は、「三島村上」とも総称される。往来する船から通行料を徴収することで得た莫大な財力と強力な武力を背景に、瀬戸内海の覇権を握った。しかし、豊臣秀吉が1588年に出した海賊禁止令により衰退する。

城FILE 6

能島城

構造 海城  
築城者 不明  
築城年 14世紀中頃か  
遺構 郭、石垣

今治市宮窪町瀬戸内海の中世海城としては唯一の国史跡。島全体が城塞化され、本丸、二の丸、出丸などの曲輪跡が残っている。

ゆかりの武将

村上武吉 ?~1604年

1550年ごろには能島村上氏の統率者としての地位を確立し、「三島村上」の頭領格となる。最盛期には堺から坊津(薩摩半島)までといわれる海上王国を実現。どの大名にも臣従することなく独自の姿勢を貫いた。



潮流体験船

【ちようりゅうたいげんせん】

能島城跡から船瀬瀬戸、伯方・大島大橋というルートで約40分かけてクルージング。ホームページではその日の潮流が最も速くなる時間帯を紹介しているの、ぜひ事前にチェックを。

- ◆今治市宮窪町宮窪1293-2 ☎0897-86-3323
- ◆運航時間/9:00~16:00(最終受付16:00、1時間間隔で随時運航) ◆定休日/月曜(祝休日の場合は翌平日) ◆乗船料/中学生以上1,200円、小学生600円、未就学児無料 ◆定員/40人(10人以上的場合は要予約)

日本最大の海賊と恐れられた村上氏。因島、能島、来島の三家から成り、互いに強い同族意識で結ばれていた。中でも最強を誇った村上武吉率いる能島村上氏が本拠としたのが能島城だ。周囲850メートルの能島と、すぐ南のさらに小さな鯛先島にまたがって立地し、両島はかつて橋でつながっていたという伝承がある。

江戸時代以降、無人島となっていた城跡は発掘調査が進められたものの、今も多くの謎に包まれている。定期船がないため上陸することはできないが、大島の宮窪漁港を出航する潮流体験船で海上から見ることは可能。島に近づくとつれて激しく複雑にうねる潮を目の当たりにすると、海賊衆の操船技術がいかに高かったかを実感できる。

乗船場の向かいに立つ今治市村上海賊ミュージアムに展示されている出土品や資料でその実像に迫った後は、しまなみ海道を北へ。大三島で彼らの信仰を集めた大山祇神社を参拝し、因島村上氏が根城を置いた因島では城型資料館の因島水軍城で興亡の歴史をたどる。村上海賊の勢力拠点となった芸予諸島の島々にゆかりの地を訪ねて回れば、自在に海原を駆け巡った海の武将たちの躍動する姿がありありと浮かび上がる。

START

岩礁に残る橋跡の柱穴

能島村上家の家紋入り陣羽織(村上海賊ミュージアム所蔵)



## 城下町の名物



ぷりぷりの刺し身をご飯と一緒にかきこむ

### 鯛めし

愛媛県の郷土料理、鯛めしは地域によってスタイルが異なる。東予・中予地方が一尾丸ごと焼いた鯛をご飯と一緒に炊き込むのに対し、南予地方では卵を溶いたしょうゆだしに刺し身をさっと漬けて熱々の白飯に載せ、その上からさらにだしをかけて卵かけごはん風。平安時代、海賊たちが酒盛りの締め船上で食べたのが始まりという。

◆宇和島鯛めし協同組合 ☎0895-24-0028

## 注目スポット



角で激しく突き合う  
手に汗握る迫力満点の取組  
宇和島市営闘牛場

牛と牛が巨体をぶつけ合い、土煙が舞う。宇和島の闘牛の発祥には諸説あるが、藩の古文書には19世紀初頭の享和年間、すでに本格的に行われていたことが記されている。1975年に完成した全国初の全天候型の闘牛場では年5回の定期場所を開催。

◆宇和島市和霊町496-2 ☎0895-25-3511  
◆定期場所/正月(1月2日)、春(4月第1日曜)、和霊大祭(7月24日)、盆(8月14日)、秋(10月第4日曜)  
※変更する場合あり ◆入場料/高校生以上3,000円(前売り2,500円)、中学生以下無料

主なスポットには駐車場があるが、できれば歩いて回りたい。じゃこ天の店を探したり、路地から天守の姿を仰いだり徒歩ならではの楽しみがある。



### 天救園

【てんしゅえん】

7代藩主、伊達宗紀が造った池泉廻遊式の庭園。池の周りには伊達家の家紋「竹に雀」にちなみ、多数の珍しい竹が植えられている。藤の名所としても知られ、4月初旬から中旬にかけて、池に架かる太鼓橋は白玉上り藤に彩られる。

◆宇和島市天救公園 ☎0895-22-0056  
◆開園時間/8:30~16:30(4月~6月は17:00まで)  
◆休園日/12月第2月曜~2月の月曜、12月28日~1月1日  
◆入園料/大人500円、高校生300円、中学生200円、小学生100円



天救園通りの古い町並み。

約3分



グルメ

散策中に小腹が空いたら、ぜひ名物のじゃこ天を。城下町には専門店が多数あるので、店頭で揚げている熱々をいただく。



辰野川沿いは寺町の風情が残る。

約25分

約10分

### 龍光院

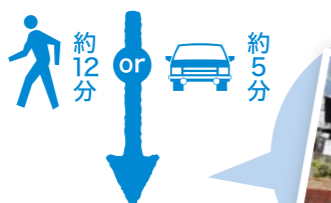
【りゅうこういん】

伊達秀宗が初代藩主に就いた翌年の1615年、宇和島城の鬼門に当たる場所に藩の安寧と領民の安泰を祈願して建立され、以後、伊達家の祈願所となった。松尾芭蕉の母が宇和島出身であることにちなみ、境内には芭蕉の句碑が立つ。

◆宇和島市天神町1-1 ☎0895-22-0527



宇和島は「鉄道唱歌」の作詞者、大和田建樹の出身地。駅前には軽便鉄道時代のSLのレプリカとともに顕彰碑が立っている。



約12分

約5分

### 和霊神社

【われいじんじや】

日本最大といわれる高さ12メートルの石造りの鳥居が目印。伊達秀宗に仕えた山家清兵衛を祀る。清兵衛は秀宗の父、政宗がお目付け役とした重臣で、藩政の安定に手腕を発揮した。しかし、1620年に凶刃に倒れた後、事件に関与した者が相次いで海難や落雷で変死。清兵衛の怨霊だと恐れられる人々により、53年に創建された。7月23日、24日の「和霊大祭」は四国屈指の祭りとして知られる。

◆宇和島市和霊町1451 ☎0895-22-0197



土、日、祝日に宇和島城のボランティアガイドをしています。標高80メートルにある天守は現存12天守の一つで、最上階からは市内を一望できます。

うわじま道先案内人 高橋 敬さん

## 宇和島

愛媛県宇和島市

# 美しい天守を仰ぎ 南国に根付いた 伊達家の足跡をたどる



### 歴史

941年に警固使、橘遠保が藤原純友の乱の際に岩を構えたのが最初。1595年、豊臣秀吉から城主に任命された藤堂高虎が初めて天守を築く。1614年に伊達政宗の長男、秀宗が初代藩主として入封。71年、2代目の宗利による10年がかりの大改修が完了。現在も天守はその姿をとどめている。

### ゆかりの武将

#### 伊達秀宗 1591年~1658年

仙台藩主、伊達政宗の長男。1614年の大坂冬の陣では政宗と共に徳川側に付く。政宗には軍功として幕府直轄地の宇和郡10万石が与えられ、それを譲り受けて初代宇和島藩主に。明治維新までの伊達家9代にわたる藩政の礎を築いた。



### 宇和島市立伊達博物館

【うわじましりつだてはくぶつかん】

宇和島伊達家に残る甲冑や武器、調度品、婚礼道具など約4万点を所蔵。9代藩主、宗徳の婚礼の際に使われた駕籠は必見。全面に金張り細工が施され、「動く御殿」の異名を取った。

◆宇和島市御殿町9-14 ☎0895-22-7776  
◆開館時間/9:00~17:00 ◆休館日/月曜(祝休日の場合は翌平日)、年末年始 ◆入館料/大人500円、高・大生400円

上り立ち門から  
約5分

### 城FILE 6

#### 宇和島城

別名 鶴島城  
構造 梯郭式平山城  
天守 層塔型3重3階  
(国指定重要文化財)  
築城者 藤堂高虎  
築城年 1601年  
遺構 天守、門、石垣



現存する建造物は天守と、城山の南側にある上り立ち門のみ

宇和島市丸之内1 ☎0895-22-2832  
◆入城時間/9:00~17:00(11月~2月は16:00まで)  
※開門は6:00~18:30(11月~2月は17:00まで)  
◆休城日/無休  
◆入城料/大人200円、中学生以下無料  
◆アクセス/宇和島道路「宇和島朝日」ICから約5分

白亜の天守を頂く城山を中心に広がる市街地。豊臣秀吉から領地を与えられた「築城の名手」藤堂高虎は1601年、6年の歳月をかけて強固な城塞を築いた。1614年に伊達政宗の長男、秀宗が初代藩主に就くころには世も落ち着き始め、2代宗利によって改築された現在の天守は、千鳥破風や唐破風といった装飾がしつらえられる一方で、狭間や石落としなどの防御機能は一切排除された。

明治維新まで続く宇和島伊達家の隆盛ぶりを伝えるのが、城山の南に立つ伊達博物館だ。歴代藩主の甲冑や婚礼道具などを展示。懐剣一つとっても柄や鞘に蒔絵が施されるなど、いずれの品も贅の限りが尽くされている。隣接する天救園は7代宗紀が造った庭園。春には藤や花菖蒲が咲き誇り、多くの人が出でにぎわう。

天救園から古い町並みを抜け、市街の東側を流れる辰野川に出る。かつて寺町だった川沿いには伊達家ゆかりの寺社が集まっている。せせらぎを聞きながら、下流にある伊達家の祈願寺、龍光院へ。煩惱の数に過去・現在・未来の三世を足した1111段の石段が境内へと続く。高台から望む城山。古くから「鶴島城」の名でも親しまれてきた名城は、昔と変わらない美しさを城下に誇示している。



高虎時代に築かれたといわれる三の丸の石垣



注目スポット



散策途中に立ち寄り  
2種のちりめん丼に舌鼓  
廊中ふるさと館

土居廊中にあり、釜ゆでのちりめんじゃこに大根おろし、ミョウガを添えた「ちりめん丼」(小鉢、香物、みそ汁が付いて950円)や、じゃこ野菜のかき揚げを載せた「かき揚げちりめん丼」(1,050円)などが人気。特産品や土産物の販売も。  
※ご当地グルメ「釜あげちりめん丼」は、市内16店舗がそれぞれの趣向で提供している

◆安芸市土居1017-1 ☎0887-34-0701  
◆営業時間/9:00~17:00(ランチ11:00~15:30) ◆休業日/月曜(祝日の場合は営業)

城下町の名物



200年を誇る技術を  
体験できる陶芸施設

内原野陶芸館

江戸時代末期に五藤家によって興されたと伝わり、素朴で重厚な風合いが特徴の内原野焼。その伝統を守る陶芸館では、陶見学や作品販売のほか、手びねり、絵付けなどの体験も行っている。

◆安芸市川北2,1607-1 ☎0887-32-0308  
◆開館時間/9:00~17:00 ◆休館日/水曜、年末年始 ※体験のメニュー、料金などは要問い合わせ

岩崎弥太郎生家には、土曜、日曜、祝休日  
にボランティアガイドが常駐。依頼すれば  
丁寧に解説してもらえる。



土居廊中の武家屋敷通り 学び

【どいかちゅうのぶけやしきどおり】

安芸城跡を中心に五藤家が整備し発展させた町割り、土居廊中の武家屋敷が立ち並ぶ区画で、国の重要伝統的建造物群保存地区。家臣の一人、野村家の居宅は一般公開され、母屋をはじめ便所風呂棟、納屋など江戸時代末期の暮らしをのぞくことができる。

☎0887-34-8344(安芸観光情報センター)



観光は無料のレンタサイクルが便利。  
安芸駅ちばさん市場や安芸観光情報  
センターなどで貸し出している。



野良時計(畠中家の櫓時計) 学び

【のらどけい(はたけなかのやぐらどけい)】

明治半ば、一帯の地主であった畠中源馬が製作。米国製の時計を分解して製造や原理を独習し仕組みを覚え、分銅や歯車といったパーツも全て手作りした。遠方からでもよく見え、周辺で農作業をする人たちが時間の確認に役立てたとされる。

◆安芸市土居638-4 ☎0887-34-8344(安芸観光情報センター)



市内には、弘田龍太郎が作曲  
した「春よ来い」に「叱られて」  
「靴が鳴る」をはじめとする  
曲碑10基が点在する。



岩崎弥太郎生家 学び

【いわさきやたらうせい家】

岩崎弥太郎の曾祖父が1795年ごろに建築した約30坪のかやぶきの平屋。弥太郎が生まれた部屋や三菱のマークの原型になったという岩崎家の家紋が入った鬼瓦も残る。また、庭には12、13歳の時に日本列島を模して作ったとされる石組みもあり、10代にして「日本列島はわが庭の内にあり」との言葉を残したという逸話も。

◆安芸市井ノ口甲一の宮  
☎0887-34-8344(安芸観光情報センター)

岩崎弥太郎生家前の  
まる弥カフェでは、  
地元の県立安芸桜  
ヶ丘高校の生徒と  
考案した「なすの  
プリン」(220円)など、  
特産品を使ったオリ  
ジナル商品や土産  
物を販売。



農家の構えをしていますが、武家特有  
の玄間もあり、半農半士の暮らしを感じ  
させます。弥太郎は出たり戻ったりしつ  
つ27歳前後までここを拠点にしたそう  
です。死後も一族の原点として岩崎家  
が維持・管理しています。



安芸市観光ボランティアガイド  
根木勢介さん



戦国の古城を拠点に  
時代の流れに沿って  
武家屋敷から大時計へ

安芸

高知県安芸市

歴史

鎌倉時代末期に安芸親氏が築城したと伝わる。以降、安芸氏の居城となるが、1569年、長宗我部元親に攻められ落城。江戸時代に入ると土佐藩の家老、五藤為重が配され、一国一城令に伴って城下一帯を「安芸土居(土居廊中)」と称して改修し、内堀に自身の屋敷を建て周辺に家臣の武家屋敷を整えた。

城FILE 7

安芸城

構造 平山城  
築城者 安芸親氏  
築城年 1308年  
遺構 石垣、堀、土塁  
安芸市土居953  
◆アクセス/高知自動車道  
「南国」ICから約1時間



城山頂上付近の本丸跡

START



安芸市立歴史民俗資料館 学び

【あきしりつれきしみんぞくしりょうかん】

武具や生活用品、美術工芸品といった五藤家伝来の資料がそろそろ。また、郷土の歴史を伝える考古遺物や古文書、三菱グループの創業者、岩崎弥太郎や大正・昭和を代表する作曲家、弘田龍太郎など地元出身の著名人に関する資料や遺品も閲覧できる。

◆安芸市土居953 ☎0887-34-3706 ◆開館時間/9:00~17:00  
◆休館日/月曜(祝休日の場合は開館)、12月29日~1月3日  
◆入館料/大人330円、中・高校生110円、小学生50円 ※土曜は高校生以下無料



ゆかりの武将

安芸国虎 1530年~69年

安芸郡領主の安芸元泰の子として生まれる。土佐を代表する大豪族として一族を率いるものの、長宗我部元親との戦いに敗れ、家臣や領民の命と引き換えに自害した。

土佐湾から安芸川に沿って3キロほど北上すると、緑に覆われた小高い丘が現れる。土佐七豪族の一つに数えられる安芸氏の居城、安芸城の城山だ。一部土塁が残る頂上付近にはかつて本丸御殿があり、安芸平野を一望できたという。一方麓には、江戸時代の領主、五藤家によって整備された町割り「土居廊中」が広がる。内堀の景観を形作る石造りの大手門や、初夏にハスの花が咲き誇る水堀も、その際に築かれた。蔵や馬小屋が幾棟も立ち並んだという広大な領主の屋敷は取り壊されたが、再建された母屋と向かいに立つ歴史民俗資料館から、その勢力や藩政時代のにぎわいをうかがい知ることができる。

大手門を抜けて西に歩くこと数分。武家屋敷が連なる通りに出る。瓦ぶきの平屋に自然木の生垣、土用竹、瓦と玉石で作られた塀。道の幅や両脇の溝もそのまま維持され、随所に当時の面影が漂う。

町割りの南の端では明治時代の地主が作成した大時計が姿をとどめ、内堀を囲むように立ち並ぶ民家や地元特産のナスのビニールハウスが現在の人々の暮らしを教えてくれる。

戦国から江戸、明治を経て400余年、歴史のバトンは静かに受け継がれている。



内堀に立つ五藤家  
安芸屋敷





【岡山県高梁市】  
高梁…P.6  
備中松山城

【兵庫県たつの市】  
龍野…P.4  
龍野城

瀬戸中央自動車道  
瀬戸大橋

【香川県丸亀市】  
丸亀…P.10  
丸亀城

【広島県尾道市】  
因島…P.12  
因島水軍城

【愛媛県今治市】  
能島…P.12  
能島城

【愛媛県今治市】  
来島…P.12  
来島海峽

【徳島県徳島市】  
徳島…P.8  
徳島城

【高知県安芸市】  
安芸…P.16  
安芸城

【愛媛県宇和島市】  
宇和島…P.14  
宇和島城

○ IC (フルインター)   △ IC (ハーフインター)   ● JCT (ジャンクション)   ● SA (サービスエリア) / PA (パーキングエリア)





発行

一般財団法人 本州四国連絡高速道路協会

<http://honsikyokai.main.jp/>

